マルクス兄弟デパート騒動（1941）

THE BIG STORE

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 83分
初公開日 1951/03/20
公開情報 セントラル

【解説】

マルクス兄弟、ＭＧＭでの最終作は、ミュージカル場面もそれなりにリッチで、特に前半のギャグのつるべ打ちには見るべきものの多い、彼らの放った最期の光芸とも言うべき作品。今回、彼らが危機を助けるのは、姑息な支配人に乗っ取られかかった名門デパート。その跡取りの歌手トミー（当時の人気テナー、マーティン。芝居の方もなかなか達者）は自分の卒業した音楽院（そのマネージャー兼教師がチコ）の経営破綻を救うため、持ち株を大量処分する所存なのだが、これが経営陣には気に入らない。前社長の未亡人（デュモント）は、甥っ子が命すら狙われかねないとボディガードに探偵のグルーチョを雇う。最初に彼を訪ねる場面が傑作で、ヒマなクセに忙しがって、電話の応待やら何やら、にてんてこまいのフリで、作りかけの朝食を引き出しにしまって忘れてしまい、電熱器にかけっ放しの卵が鶏に（鳴き声が聴こえる）孵るのは、彼ら流の飛躍のきいたギャグで面白い。助手のハーポが夫人の話す先からタイプを機関銃のように打って結局用件の分からないギャグはお約束。グルーチョの居丈高なお喋りが快調で、エラそうに着こなす毛皮のコートをハーポが刷毛で払うとごっそり毛が抜け落ちるのにも笑った。探偵は売場主任としてデパートに潜り込むことになるが、その自己紹介のメンバーも滑らかで、バイロンの詩などそらんじては重役たちを煙に巻くグルーチョの主任、探偵、詩人――三位一体の御家殺しぶりは愉快痛快。この後の、寝具売場での最新鋭ベッドを巡るイタリア人の子沢山一家との絡みなど全く盛り上がらないのだが、ハーポがモーツァルトになった自分を夢想して奏でるハープ（三面の鏡に映る自分と協奏する）で少し盛り返し、最後のデパートの全フロアで展開する、ローラー・スケートなど駆使した追っかけは仕掛けの豊富さでまずまずの出来。全体に音楽で救われた感は否めない。

【クレジット】

監督	チャールズ・Ｆ・ライスナー	Charles F. Reisner
製作	ルイス・Ｋ・シドニー	Louis K. Sidney
原作	ナット・ペリン	Nat Perrin
脚本	シド・カラー	Sid Kuller
	ハル・フィンバーグ	Hal Fimberg
音楽	ジョージ・ストール	George Stoll
出演	グルーチョ・マルクス	Groucho Marx
	ハーポ・マルクス	Harpo Marx
	チコ・マルクス	Chico Marx
	トニー・マーティン	Tony Martin
	ヴァージニア・グレイ	Virginia Grey
	ダグラス・ダンブリル	Douglas Dumbrille
	ヘンリー・アーメッタ	Henry Armetta
	マーガレット・デュモント	Margaret Dumont

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.